

「言葉を大切に」

平成 27 (2015) 年もあと 1 か月を残すばかりとなり、朝夕急激に冷え込んできました。「健康」にも留意してほしいと思います。下京中では第Ⅳ期の定期テストも終わり、「姿の期間」のまとめを行う時期になりました。今月は、「学習」と「生活」の振り返りを行いながら、自分の表面上の「姿」だけではなく、心の「姿」も見つめ直してほしいと思います。また、各学年、とりわけ 3 年生にとっては、進路先を決定する懇談会も行われます。自分の将来をしっかりと考え、結論を出してほしいと思います。

さて、この時期になると「流行語大賞」や「今年を表す漢字」など、「言葉」で一年間を振り返ることも多くなります。みなさん自身の今年を「言葉」で表すとどのようなものになりますか。最近では情報機器の発達に伴って、直接言葉でもって相手に自分の気持ちを伝えることが減ったような気がします。相手の表情や姿を見ながら声を掛けるのと、機器を通して伝えるのでは伝わり方が違うような気がします。そして、機器を通した言葉は自分の想いから離れ、簡単に、瞬時に拡がっていきます。便利さの陰に隠れた危うさについて、一度考えてみてほしいと思います。

「言葉は、いつまでも生きものであってほしい。相手を生かし、自分も力づけられる、血のかよった、温もりのある言葉を、そして、その言葉が使える自分を、無機質なものの溢れる中で、しっかりと守ってゆきたいと思います。」(『置かれた場所で咲きなさい』渡辺和子著)



〈柿をほおぼるサル 嵯峨鳥居本〉

12 月は人権月間でもあります。1948 年 12 月 10 日 に国際連合総会の場で採択された世界人権宣言にちなみ制定されました。学校でも人権尊重について考え、話し合う時間が設けられます。人権の大切さを考える際、「言葉」の使い方を誤ると人を傷つけてしまうということ、相手を尊重し、自分を大切にする「言葉」とはどのようなものか一緒に考えてみませんか。